

令和5年度 学修成果調査結果報告（リハビリテーション学科）

1. 調査名・目的

調査名：令和5年度 仙台青葉学院短期大学リハビリテーション学科 学修成果調査

調査目的：

本学卒業後に地域社会に貢献できる人材を育成するための資料とする

- 1) 本学卒業生の能力・資質の学修成果の可視化
- 2) 本学が取り組むべき教育目標の設定、目標到達に向けた既存のカリキュラムや教育手法の見直し等に活用

2. 調査対象・方法等

対象者：令和4年3月に卒業（理学療法60名、作業療法9名）し、就職した施設の直属の上司または管理者69名

調査方法：Google Formsを用いてのWeb上での質問調査

調査期間：令和5年8月1日～8月31日

調査内容：学修成果（到達目標）として「基礎力」、「人間関係力」、「実践力」、「生涯学習力」、「地域理解力」の五つの項目を挙げている。この学修成果の各項目について、その到達状況を把握する。

(1) 調査項目（以下の11項目毎の設問作成：別紙の通り）

「基礎力」 ①知識 ②コミュニケーション力

「人間関係力」③数量的スキル ④自己管理能力 ⑤チームワーク・リーダーシップ

「実践力」 ⑥情報リテラシー ⑦論理的思考力 ⑧倫理観

「生涯学習力」⑨問題解決力 ⑩生涯学習力

「地域理解力」⑪総合的能力

(2) 回答方法

(1) の①～⑪の11項目毎に1～4個の設問内容に以下の5段階で回答を求めた。

「5：とてもそう思う」 「4：ややそう思う」 「3：どちらともいえない」

「2：あまりそう思わない」 「1：そう思わない」

※上記の調査項目や項目毎の設問は看護学科のR4年「本学卒業生（看護学科）に対する短大教育の学修成果」を参考にし、学科で作成した。

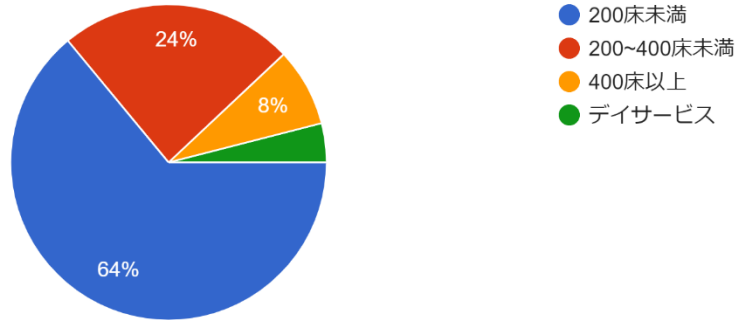
3. 結果

1) 回収率：36.2%（対象施設 69 施設, 回答施設 25 施設）

2) 項目別結果：

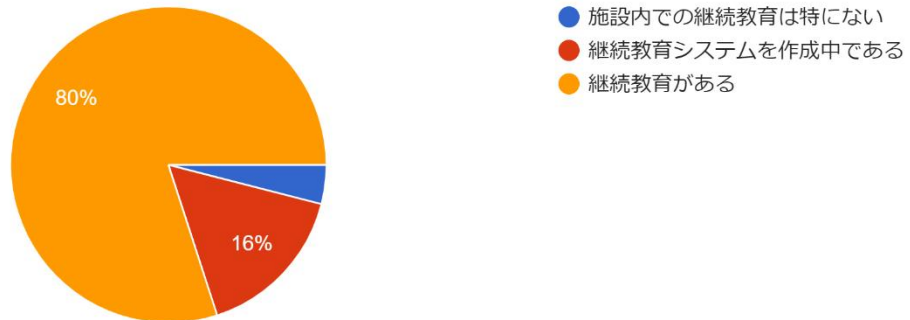
I. 貴施設の許可病床について教えてください。

25 件の回答



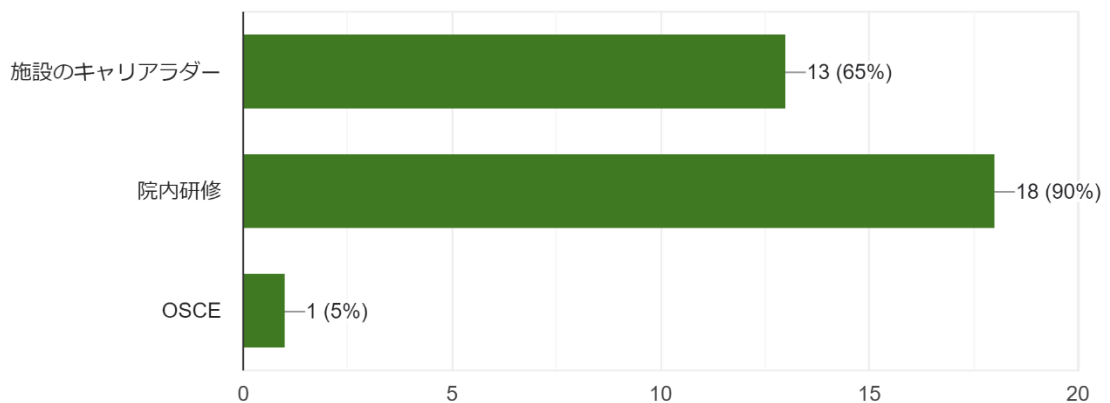
II. 貴施設の継続教育、教育体制について教えてください。

25 件の回答



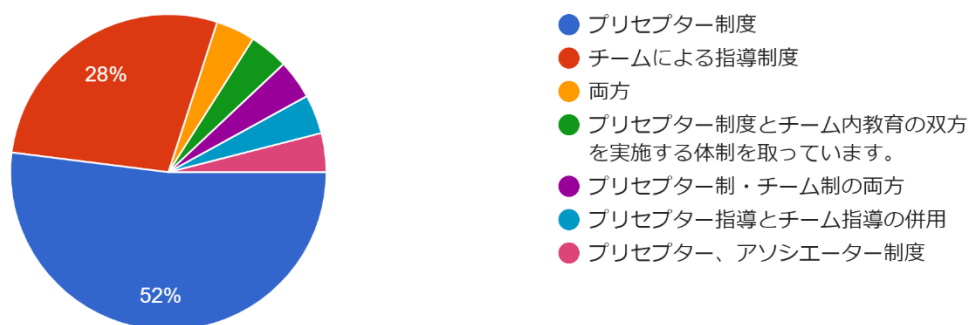
「ある」と答えた方（複数回答可）

20 件の回答



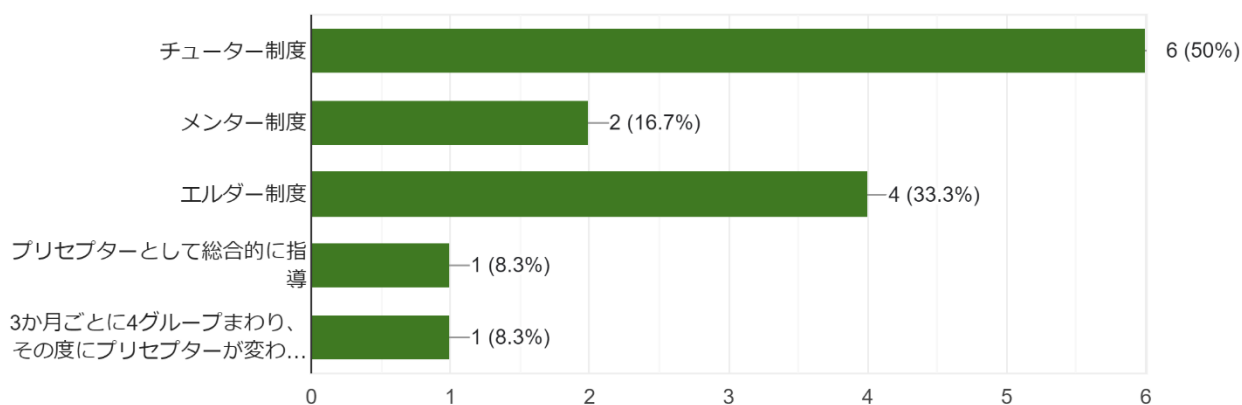
Ⅲ. 貴施設の新人教育体制について教えてください。

25 件の回答



具体的体制（複数回答可）：

12 件の回答



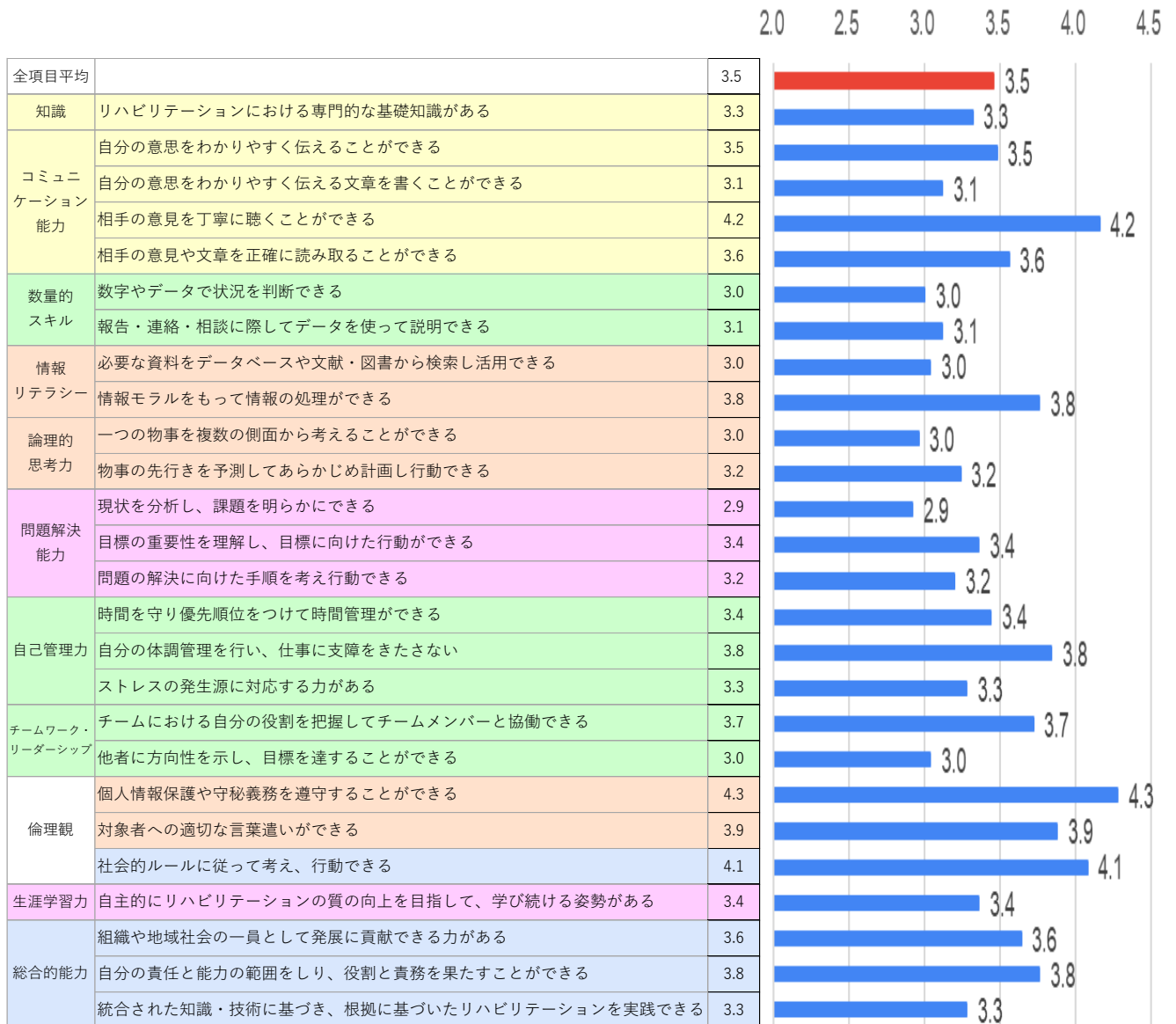
IV. 貴施設で雇用された仙台青葉学院短期大学リハビリテーション学科卒業生についてお尋ねします。

回答割合



■5とてもそう思う ■4ややそう思う ■3どちらともいえない ■2あまりそう思わない ■1全くそう思わない

卒業生の能力・資質



学修成果 5 項目の各平均

基礎力	人間関係力	実践力	生涯学習力	地域理解力
3.5	3.3	3.5	3.2	3.7

各項目平均

			小項目平均	項目平均
全項目平均			3.5	
基礎力	知識	リハビリテーションにおける専門的な基礎知識がある	3.3	3.3
	コミュニケーション能力	自分の意思をわかりやすく伝えることができる	3.5	3.6
		自分の意思をわかりやすく伝える文章を書くことができる	3.1	
		相手の意見を丁寧に聴くことができる	4.2	
		相手の意見や文章を正確に読み取ることができる	3.6	
人間関係	数量的スキル	数字やデータで状況を判断できる	3.0	3.1
		報告・連絡・相談に際してデータを使って説明できる	3.1	
実践力	情報リテラシー	必要な資料をデータベースや文献・図書から検索し活用できる	3.0	3.4
		情報モラルをもって情報の処理ができる	3.8	
	論理的思考力	一つの物事を複数の側面から考えることができる	3.0	3.1
		物事の先行きを予測してあらかじめ計画し行動できる	3.2	
生涯学習力	問題解決能力	現状を分析し、課題を明らかにできる	2.9	3.2
		目標の重要性を理解し、目標に向けた行動ができる	3.4	
		問題の解決に向けた手順を考え行動できる	3.2	
人間関係力	自己管理能力	時間を守り優先順位をつけて時間管理ができる	3.4	3.5
		自分の体調管理を行い、仕事に支障をきたさない	3.8	
		ストレスの発生源に対応する力がある	3.3	
チームワーク・リーダーシップ	チームワーク・リーダーシップ	チームにおける自分の役割を把握してチームメンバーと協働できる	3.7	3.4
		他者に方向性を示し、目標を達することができる	3.0	
実践力	倫理観	個人情報保護や守秘義務を遵守することができる	4.3	4.1
		対象者への適切な言葉遣いができる	3.9	
地域		社会的ルールに従って考え、行動できる	4.1	
生涯	生涯学習力	自主的にリハビリテーションの質の向上を目指して、学び続ける姿勢がある	3.4	3.4
地域理解力	総合的能力	組織や地域社会の一員として発展に貢献できる力がある	3.6	3.6
		自分の責任と能力の範囲をしり、役割と責務を果たすことができる	3.8	
		統合された知識・技術に基づき、根拠に基づいたリハビリテーションを実践できる	3.3	

5. 結果

全項目の平均は3.5であった。学修成果の5項目である「地域理解力」「基礎力」「実践力」「人間関係力」の順で最も低値となったのは「生涯学習力」であった。項目内でも高い評価と低い評価が散見されバラツキがみられた。各項目で平均を上回ったのは【倫理観】、【コミュニケーション能力】、【自己管理能力】、【総合的能力】であり、その他は平均より低い値であった。最も低かった項目は【数量的スキル】と【論理的思考力】で、次に【問題解決能力】、【知識】、【チームワーク・リーダーシップ】、【情報リテラシー】、【生涯学習力】の順であった。

小項目では、守秘義務の厳守や傾聴な姿勢、社会的規範を守る行動などは高い評価である一方、現状の分析、状況の判断、課題の明確化、多角的視点などは不得手であるとの結果であった。

6. 教育内容に関する考察

「実践力」の中でも倫理観は3項目共に高い評価が得られていること、他にも傾聴姿勢やモラルを持って情報処理ができることなどから社会生活上の道徳的規範は比較的高い傾向にあるのではないと言える。最も低値である現状分析・課題の明確化については、数字やデータでの状況判断が難しいことと関係が深いと思われる。データについては説明に活用することも、必要な資料を検索・活用することについても評価が低い。このことから科学的根拠に基づいて追及、発展することが不得手である者が多いのではないかと推察される。そして、解決のための行動ができない、判断ができないということについても、数字やデータでの状況判断が難しいこと課題が明確ではないことの影響であるように思われる。そのため、まずは数字やデータへの苦手意識を払拭させること、そして納得のいく根拠を求めるために論理的思考力を高めることが必要であるのではないと思われる。その他、多面的思考や予測・計画・行動、文章能力の評価が低い、物事の予測や多面的思考力は経験をし、視野を広げるための助言が必要であるため修得の難易度が高いと言える。

今回低値であった項目のスキルアップはどれも経験値が必要である。そのため、在学中にフィードバックを受けながら、繰り返し取り組み、経験をすることがまずは重要となるのではないと思われる。

7. 教育内容への反映

- 評価の高い項目について

【倫理観】、【コミュニケーション能力】、【自己管理能力】、【総合的能力】が挙げられた。

これらの項目について評価が高かった理由としては、臨床実習教育が上げられる。理学療法学専攻は、20単位、作業療法学専攻は22単位分の臨床実習を病院あるいは老人保健施設にて実習をしている。医療人としての心構え、対象者との関わりを通して、コミュニケーション能力や自己管理（スケジュール管理）能力が向上したと考える。学生にとって、臨床実習は、自身のスキルを上げるための最も重要な科目であると考えられる。

- 評価の低い項目について

【数量的スキル】、【論理的思考力】、【問題解決能力】、【知識】、【チームワーク・リーダーシップ】、【情報リテラシー】、【生涯学習力】が挙げられた。

これらの項目は、1年次からの授業の積み重ねによる学習過程および経過の上に成り立つ。理学療法学専攻および作業療法学専攻での系統立てたカリキュラムの学修が不十分であったと考えている。

よって、個々の科目間において連動性を持たせ、学修の相乗効果が得られるような講義内容のブラッシュアップが必要であろう。今後は、理学療法研究法、作業療法研究法などで科学的根拠に基づいた論文の精読、問題提起および問題解決・臨床思考過程の形成を促すよう取り組む。

8. 今後の検討課題

今後本学科が行うべき取り組みは明白である。まずは、卒業後に臨床現場で最低限必要な基礎知識を身に着けること、現場で活用できる実践力を身に着けることである。その延長線上に、生涯学習能力がついてくる。知識の向上は、カリキュラム構成を再検討し、基礎から応用まで系統立てて構築できる構成になるよう改善していく。また、カリキュラムとアドミッション・ポリシーやカリキュラム・ポリシーなどとの関連性について見直しを検討する。また、基礎知識を詰め込むだけでなく、その知識を使って考える論理的思考力および問題解決能力についても、演習授業の中で、「何の目的のために、何を評価し、何のために治療をするのか」を常に意識させる演習構成の導入を図る。3年制の養成過程で、基礎力も実践力も身に着けるには、教育力だけでなく学生の質や学生自身が学び続ける姿勢も重要である。基礎医学で基礎知識を学び、専門科目で臨床思考過程および実践力が身に着けられるよう教育力の向上に努める。